

香川大学と都市圏大学の連携事業における地場産業体験の実践

○梅津 彩音(香川大学地域人材共創センター), 神田 亮(香川大学地域人材共創センター), 八重樫 理人(香川大学情報化推進統合拠点 DX 推進研究センター)

1. はじめに

香川大学では COC 事業の採択により「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を整備, 次いで COC+事業の採択では「地域インターンシップ」を整備した. 前者は香川県内における, 地域課題を通じた地域理解を目指す PBL 型のプログラムであり, 後者は同県内での就労体験を通じた地域理解を目指すインターンシップ型のプログラムである. 両者とも 1, 2 年次向けの全学共通科目として, 学生の地域理解を目的に開講されており, これらは当学の理念「世界水準の教育研究活動により, 創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し, 地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」ことを目指すものでもある.

また, 芝浦工業大学と香川大学において「地方と東京圏の大学生対流促進事業(以下, 対流促進事業)」が採択された運びから 2018 年より「うまげなかがわ感じてみまい! うどん県住みます学生プロジェクト」を共同で実施し, 香川大学内で行われていた「瀬戸内地域活性化プロジェクト」や「地域インターンシップ」などの地域教育プログラムを対流促進事業へと拡大, 主に 1, 2 年次向けのプログラムとして学内外の学生へ提供を開始した. 当初は「ローカルを理解したグローバル人材」「グローバルを理解したローカル人材」の育成を目指した取り組みと定義し行われたが, 2019 年に津田塾大学と東京農業大学が参加したことにより, 対流促進事業で育成する人間像を「様々な価値観を理解しそれぞれが抱える課題を理解するだけでなく, その課題解決の実践がおこなえる人材」(神田ら 2021)と再定義した. さらに, 2021 年 4 月よりこれまで実施してきた学生交流と併せて, 研究面や教職員交流等での交流も含め, より発展的に継続を目指し「香川と都市圏の大学連携推進事業」(以下, 本事業とする)と名称を変更した. 本事業は大きく分けて短期・長期の 2 つのプログラムで構成されている. 短期プログラムでは, 地域でのフィールドワークを通して地域理解を促す「フィールドワーク型」, 地域での就労体験を通して地域理解を促す「就労体験型」, 専門知識をベースに地域課題解決を目指す「ワークショップ型」の 3 つのプログラムで構成されている. 長期プログラムでは, 芝浦工業大学と香川大学の間で締結している単位互換協定を活用し, 相互の大学で学生の受け入れを実施している. 本稿では, 2023 年度に実施した短期プログラム「就労体験型」として実施された「うどん県で楽しいを仕事にする Vol.3」(以下, 本プログラムとする)について述べる.

2. 「うどん県で楽しいを仕事にする Vol.3」の概要

本プログラムは, 香川県内の自治体や地場産業・企業で実施する就労体験型のプログラムである. 香川県にしかない魅力的な地場産業や全国シェアトップクラスの企業に体験入社し, 地域でないと体験出来ない“シゴト”に触れ, 「地域だからできること」を学び考えると同時に, 学生が他の専門領域および他大学の学生との交流により多角的な視点を獲得する狙いもある.

今年度の本プログラムにおける参加者は, 芝浦工業大学(8名)・津田塾大学(8名)・東京農業大学(8名)・香川大学(6名)の合計 30 名であった. また, 本プログラムでは仕事体験先および宿泊先の関係から, 高松エリアと小豆島エリアに分かれてプログラムを実施した. 2 つのエリアおよび各仕事体験先に対して人数が均等になるように選考した. 表 1 は各班の訪問先・体験内容を示している. 実施期間は 2023 年 8 月 20 日~23 日の 3 泊 4 日であった.

各仕事体験先では現状を座学・フィールドワークの両面からインプットし, 滞在先に戻り学生同士で意見交換をしながらアウトプットすることで地域を理解する. 学生は現地で生活をしながらプログラムを行うため, プログラム外でも普段の地域の様子を肌感覚で理解することができる.

表1 各班の訪問先と体験内容

班分け	人数	受入れ先	目的・内容
A チーム (高松)	4名	地場産業企業 (庵治石)	伝統産業である庵治石について、石切場の視察や使用される施設について現地を見学。後継者等の課題把握や製品の新たな取り組みとその可能性について考える。
B チーム (高松)	5名	JA	香川の食文化を通じた理解を促す。県内野菜の育苗体験、各施設の見学、名産の盆栽に関する施設見学と苔玉の作成など。
C チーム (高松)	5名	民間団体 (町おこし)	地域おこし協力隊を経験した代表のもと、山間地域の現状を座学とフィールドワークで体験。地域が目指す姿について住民とともに意見交換。
D チーム (小豆島)	6名	2町自治体 (土庄町・小豆島町)	地域おこし協力隊と共にフィールドワークによる現地理解と、地域経済に対する協力隊の政策について意見交換。特定場所の観光地化を狙ったゲーム企画の提案やキャッチコピーづくりを行う。
E チーム (小豆島)	5名	地場産業企業 (オリーブ)	オリーブについての基礎情報を畑や工場にて理解した上で、日本国内における有数のオリーブ栽培地の基本データや特色を調査。社内にて発表。
F チーム (小豆島)	5名	地場産業企業 (醤油など)	醤油産業に関連した各社の特徴的な取り組み（製品開発・伝統技法・社内活動）について見学・体験・意見交換。醤油の搾りかすを肥料とした野菜栽培についても見学。



3. 学生の声

本プログラムに参加した学生からは「仕事・顧客・地域への熱意と愛情を感じ、そういったものを形にするために働くという印象を受けた。楽しく働く人を知ることができたことが大きな収穫だった」といった地域と産業のつながりを学び、働くことについて再認識する声や、「便利か不便かということではなく、町の雰囲気や住人の活力が魅力になると感じた」といった地方の魅力を発見する声、「異なる学部や学年、また様々なバックグラウンドを持つ人々の意見を聞くことで、知識が更新され新たな発想が生み出されると分かった」といった、他大学（学部）間交流による多角的視点の獲得についての声などが聞かれた。

【参考文献】

- 1) 神田 亮, 長尾 敦史, 後藤田 中, 米谷 雄介, 蘆澤 雄亮, 山澤 浩司, 小舘 亮之, 八重樫 理人:「香川大学と首都圏大学の対流促進事業による地方創生人材育成の実践」, 日本教育工学会研究報告集, 2021 巻1号 p.41-46, 2021
- 2) 神田 亮, 八重樫 理人, 宮本 慎宏, 松永 貴輝, 長尾 敦史, 後藤田 中, 米谷 雄介, 蟹澤 宏剛:「学生交流による香川での建築・建設分野の導入教育の実践とその効果」, 工学教育, 68巻4号 p.51-57, 2020
- 3) 香川大学:うまげなかがわ感じてみまい!, Web ページ, <https://www.cpp.ao.kagawa-u.ac.jp/> 参照日:2023年10月15日
- 4) 地方創生:まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」「基本方針」, Web ページ, https://www.chisou.go.jp/sousei/mahishi_index.html 参照日:2023年10月15日
- 5) 文部科学省:平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」パンフレットについて, Web ページ, https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1378659.htm 参照日:2023年10月15日